

日本脳炎（1期）定期予防接種のお知らせ（特例措置②）

平成17年5月30日の積極的勧奨の差し控えにより、接種の機会を逃した方への定期接種です。

- 1 特例対象者** 平成20年4月2日～平成21年10月1日生まれで、日本脳炎第1期の予防接種が3回終了していない方、または一度も接種していない方
- 2 実施期間** 9歳～13歳の誕生日の前日まで
- 3 接種場所** 別紙「予防接種協力医療機関」日本脳炎に○印のある医療機関
※医療機関へ事前に予約をしてから接種をしてください。
- 4 持ち物** 予防接種予診票（伊那市発行のもの）・母子健康手帳
- 5 費用** 無料（公費負担）※対象年齢を過ぎると実費になります。

6 接種回数・間隔

- ・母子手帳をご確認いただき、7歳半までに第1期（3回）の接種が済んでいない方は、不足分を接種します。
- ・接種を全く受けていない場合は、2回目と3回目の間隔は6月以上あけてできますが、おおむね1年あけることが望ましいとされています。
- ・7歳半～8歳の間は、公費（無料）での接種はできません。

	接種期間・・・9歳～13歳の誕生日の前日まで						
	<1回目> 1期初回 1回目	間隔	<2回目> 1期初回 2回目	間隔	<3回目> 1期追加	間隔	<4回目> 2期
(ア) H22.3.31までに 1回接種済	接種済	6日以上	①	6日以上	②	6日以上	③
(イ) H22.4.1以降に 1回接種済	接種済	6日以上	①	6月以上	②	6日以上	③
(ウ)	接種済	/	接種済	6日以上	①	6日以上	②
(エ)	接種済	/	接種済	/	接種済	/	①
(オ)	①	6日以上	②	6月以上 (おおむね1年)	③	6日以上	④

裏面をご覧ください

7 日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。

飼育されているブタの体内で増えたウイルスが蚊（コガタアカイエカ）によって媒介され感染します。潜伏期は7～10日で、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれん等の症状を示すウイルス性の急性脳炎です。

ヒトからヒトへの感染はありません。感染した人のうち、100～1,000人に1人が脳炎を発症すると考えられています。

脳炎にかかった時の致命率は約20～40%ですが、治った後に神経の後遺症を残す人が多くいます。近年、西日本の高齢者を中心に発症していますが、若年者の発症も見られます。

8 予防接種の効果

第1期の初回2回、追加1回の合計3回の接種で基礎免疫がつき、第1期の抗体レベルを維持するために、第2期を接種します。

日本脳炎の予防接種は4回することで必要な抗体が得られます。

9 ワクチンの副反応

発熱（2.4%）接種部位の腫れ（1.4%）じんましん（0.2%）が接種後1日目に多くみられました。重篤症例は、10万接種当たり0.7です。

（令和元年9月第43回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より）



R3.4.1

＜お問合せ先＞伊那市役所健康推進課予防係 電話0265-78-4111 内線2332